平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	神奈川県果樹組合連合会
１０１ ※記入不要		

要望問題　カキの早生新品種の安定生産技術の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

〈背景〉
　１１月から販売する「富有」に替わって、１０月中に確実に販売出来る「早秋」「甘秋」「太秋」などへの注目が高まっており、一部産地にはこれら新品種の導入が始まっている。しかし栽培面で不明な点が残されている。

〈内容〉
　上記新品種等の高品質安定生産技術の確立を要望する。特に「早秋」では着果安定と大果生産技術、「太秋」では雌花確保対策をお願いする。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：生産技術部	
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）
　カキ「早秋」の高品質安定生産技術の確立
　カキ「太秋」の高品質安定生産技術の確立

対応の内容等
　ご指摘のとおり、今後の販売方向として高品質で１０月に収穫できる品種を導入することは重要だと考えています。「早秋」「甘秋」「太秋」の品質の優秀性については、これまでの研究でほぼ確認できたところですが、平成１６年度からは安定生産と収量性を中心に上記の課題により取り組んでいるところです。「早秋」においては結実安定のための授粉の効果、「太秋」では着果法と翌年の雌花確保の関係等について取り組んでおります。
　平成１７年度からは「甘秋」も含めて課題化していく予定です。なお、今年度「早秋」「甘秋」の苗木を新植するとともに、従来の「富有」等に高接ぎを行いました。これらの樹体を利用しながら５年程度のスパンで栽培技術を確立してまいります。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	